

産婦人科

プログラム名： ①川崎医科大学産婦人科研修プログラム

定員： 各年次4名 合計12名

プログラム年数： 3年

総医Cプログラム担当者： 産婦人科（産婦人科学2）本郷 淳司

総医C問合せ先： E-mail: hongol@med.kawasaki-m.ac.jp(本郷)

研修スケジュール：

3年間を基幹施設2年と連携施設2ヵ所以上（うち1ヵ月以上は地域医療の研修）で計1年間の研修をする。研修医の個別の事情も考慮し、基幹施設2年間の研修は最短1年まで、また連携施設の研修は最短1ヵ月、最長1年11ヵ月まで許容する。また、地域医療研修を1ヵ月以上経験する。

基幹施設と連携施設：

基幹施設	川崎医科大学附属病院	12～23ヵ月
総合型	川崎医科大学総合医療センター、大阪警察病院、地域医療機能推進機構大阪病院、大阪府立急性期・総合医療センター、大阪労災病院、済生会中津病院、市立堺病院、兵庫県立西宮病院、 <u>りんくう総合医療センター</u> 、日本生命病院、 <u>市立豊中病院</u> 、 <u>鳥取市立病院</u>	1年 (1ヵ月～23ヵ月)
連携専門医療型施設	<u>小池病院</u> 、 <u>三宅病院</u> 、 <u>厚仁病院</u> 、 <u>愛染橋病院</u> 、 <u>庄原赤十字病院</u> 、 <u>赤堀クリニック</u>	1ヵ月～23ヵ月

下線は地域医療枠を満たす病院である。

プログラム統括責任者： 川崎医科大学附属病院産婦人科 下屋 浩一郎

プログラム基本情報： 上記のプログラムに沿って3年間の研修を行う。川崎医科大学総合医療センターでは最長1年11ヵ月間の婦人科腫瘍、生殖内分泌、女性ヘルスケア、周産期の各領域研修が可能である。川崎医科大学附属病院では1年間の周産期、生殖内分泌、婦人科腫瘍領域の研修を行ない、3年間のうち少なくとも1ヵ月は地域医療の連携施設で研修することが必須である。

研修目標・到達目標： 周産期領域、婦人科腫瘍領域、生殖内分泌領域、女性のヘルスケア領域のすべての領域を研修し、十分な症例を経験し、産婦人科専門医に必要な知識と技術を習得する。

取得可能な専門医： 日本産科婦人科学会認定 産婦人科専門医

プログラム名： ②岡山大学産婦人科研修プログラム

定員： 各年次 15 名 合計 45 名 大学院・専門医研修コースは各年次若干名

プログラム年数： 3 年

総医 C プログラム担当者： 産婦人科（産婦人科学 2）本郷 淳司

総医 C 問合せ先： E-mail: hongol@med.kawasaki-m.ac.jp (本郷)

研修スケジュール：

3 年間を基幹施設 6 カ月、連携施設 A 12 か月、連携施設 B 12 か月、基幹施設 6 カ月、もしくは連携施設 A 18 か月、連携施設 B 12 か月、基幹施設 6 カ月に分割して 3 施設で研修をする。また卒業後 3 年目に岡山大学大学院に入学し、基幹施設、連携施設で専門医研修をしながら、社会人大学院生として研究を行い、卒業後 5 年目に産婦人科専門医、6 年目に学位を取得するコースもある。

基幹施設と連携施設：

基幹施設： 岡山大学病院

連携施設： 川崎医科大学総合医療センター、岡山赤十字病院、岡山医療センター、岡山済生会総合病院、岡山中央病院、倉敷成人病センター、津山中央病院、落合病院、広島私立広島市民病院、福山医療センター、三原興生総合病院、福山市民病院、岩国医療センター、香川県立中央病院、八島総合病院、三豊総合病院、香川労災病院、愛媛県立中央病院、鳥取私立病院、姫路赤十字病院、姫路聖マリア病院、赤穂中央病院

岡山二人クリニック（生殖医療研修）、赤堀病院（地域）、兵庫県立こども病院（NICU 研修）、大阪中央病院（腹腔鏡研修）

プログラム統括責任者： 岡山大学病院産科婦人科 増山 寿

プログラム基本情報： 上記のプログラムに沿って 3 年間の研修を行うが、基本的には川崎医科大学総合医療センターで 18 か月間の婦人科腫瘍、生殖内分泌、女性のヘルスケア領域研修を、他の連携施設で 12 か月の周産期領域、生殖内分泌領域研修を、そして基幹施設で 6 か月の研修を行う。

研修目標・到達目標： 周産期領域、婦人科腫瘍領域、生殖内分泌領域、女性のヘルスケア領域のすべての領域を研修し、十分な症例を経験し、産婦人科専門医に必要な知識と技術を習得する。

取得可能な専門医： 日本産科婦人科学会認定 産婦人科専門医